

## IPv6 を用いた環境分野のクラウドサービスワーキンググループ の設置について（案）

### 1. 目的

「IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会」（以下「研究会」という。）における検討内容のうち、IPv6 を用いた環境分野のクラウドサービスに係る事項について、より専門的な観点から検討を行うため、ワーキンググループを開催する。

### 2. 名称

ワーキンググループの名称は「IPv6 を用いた環境分野のクラウドサービスワーキンググループ（IPv6 環境クラウド WG）」とする。

### 3. 検討内容

IPv6 環境クラウド WG では、IPv6 を用いた環境分野のクラウドサービスに係る以下の事項について検討する。

- ① IPv6 環境クラウドサービスの構築・運用に資するセキュリティ確保等技術的課題の解決方策
- ② IPv6 環境クラウドサービスの利用促進方策
- ③ その他

### 4. 主査、構成員

- 1) 主査及び構成員は、研究会座長が指名する。
- 2) 主査は本 WG を招集し、主宰する。
- 3) 副主査は主査が指名する。
- 4) 主査は上記のほか、本 WG の運営に必要な事項を定めることができる。

### 5. 庶務

本 WG の庶務は総合通信基盤局データ通信課が行う。

### 6. 会議の公開

本研究会の会議、資料、議事要旨は、原則、公開とする。

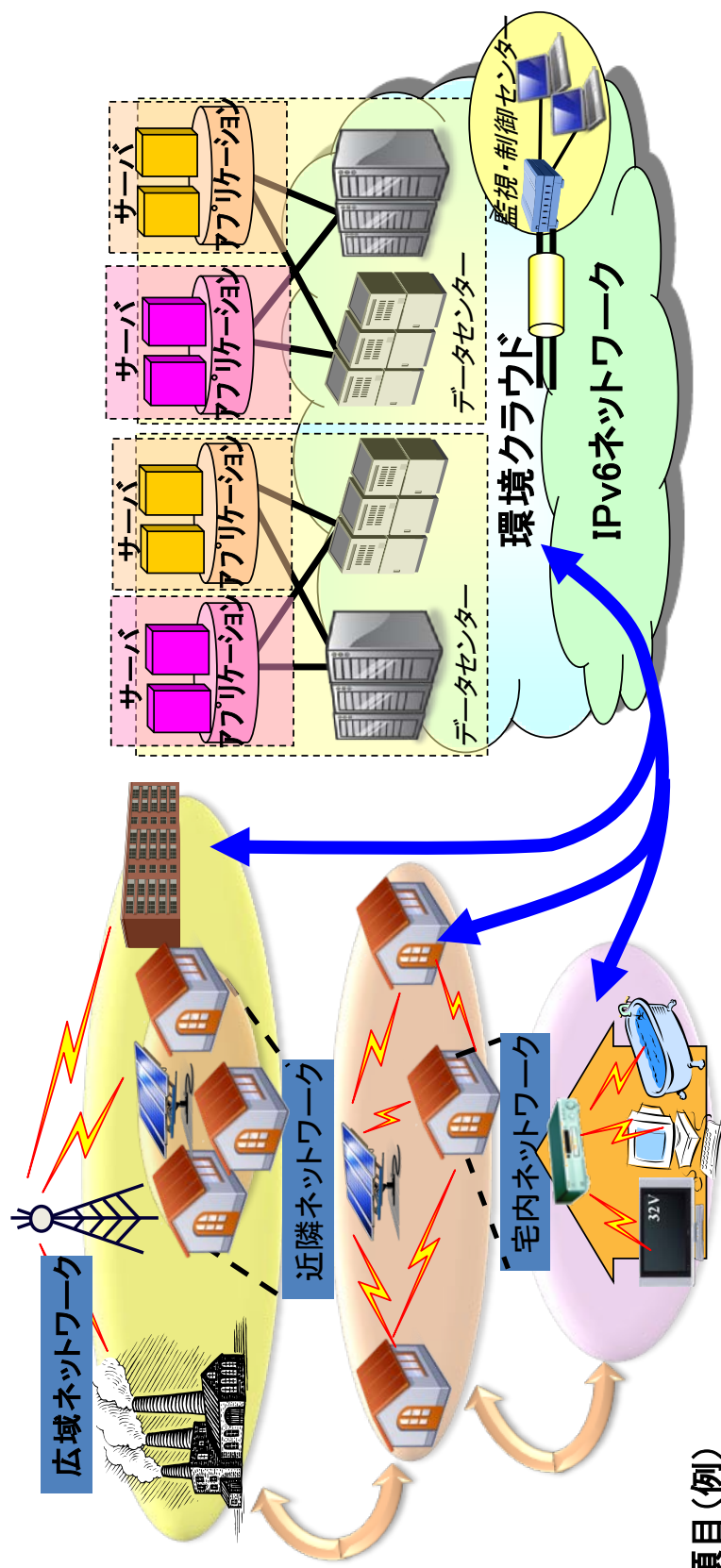
ただし、本研究会の開催に際し当事者又は第三者の権利、利益や公共の利益を害する恐れがある場合等、主査が必要と認める場合は、その全部又は一部を非公開とする。

公開は、総務省のホームページへの掲載によることとする。

# IPv6を用いた環境分野のクラウドサービスの実現に向けた実証実験 (参考)

環境負荷軽減型地域ICTシステム基盤確立事業 (21年度第2次補正予算額20億円)

環境にやさしいまちづくりを支援するため、最先端のICT技術を利用し、各地域特性に合わせたICTシステム基盤を構築・実証する。これによって環境負荷軽減のために必要な技術基準を確立し、地域資源の生産と消費の最適化を推進する。



実証項目 (例)

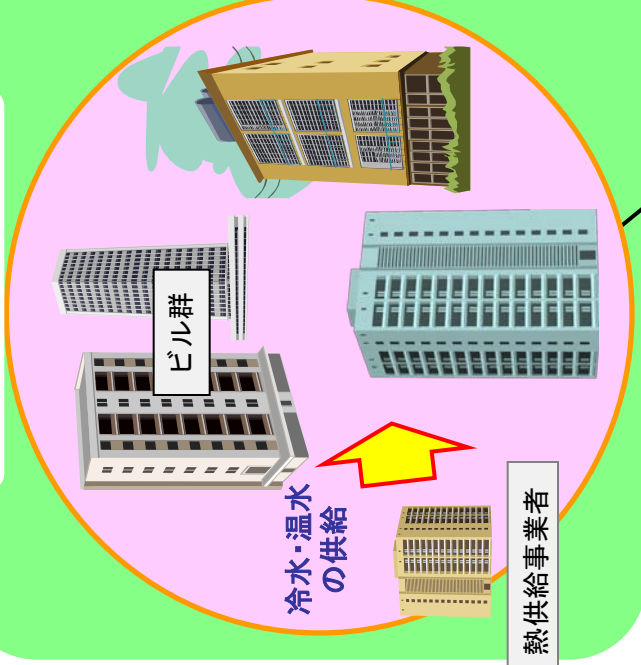
- 地域の特性に合ったネットワークの組合せを検証
- 地域で利用可能な周波数帯(ホワイトスペース)を用いた実証
- 環境クラウドにおけるデータの管理・保護のあり方を検証
- 環境クラウドにおけるセキュリティの課題について検証

必要な技術基準の確立 (ガイドライン等の策定)

# IPv6を用いた環境分野のクラウドサービスのイメージ

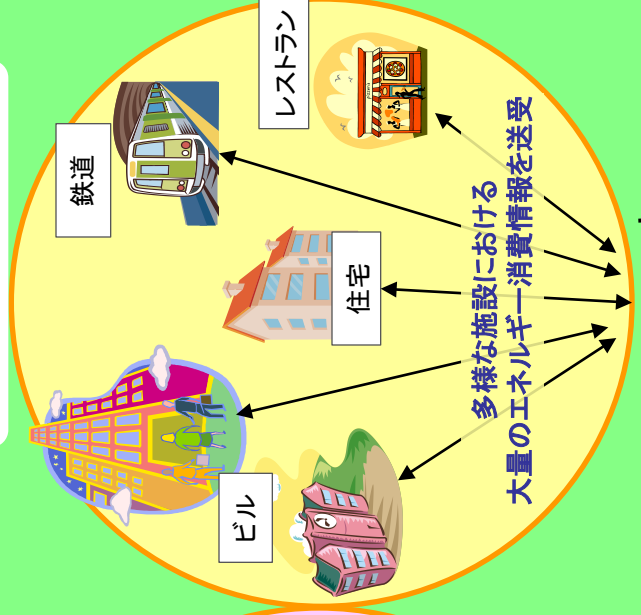
## モデルA

ビル群のエネルギー  
や熱供給量の管理・制御



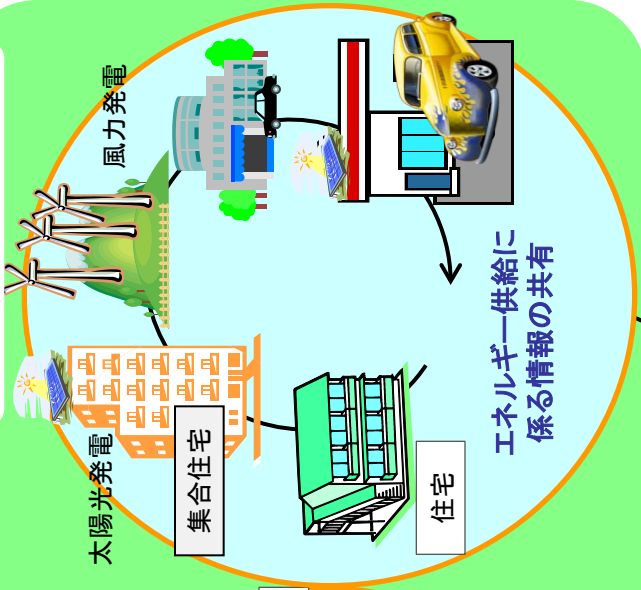
## モデルB

都市における多様な施設  
の機器の管理・制御



## モデルC

地域内のエネルギー供給に  
係る管理・制御



ホワイトスペースを活用した情報収集及び制御信号の伝達

エネルギー供給



エネルギー供給会社

通信制御方式 及び  
データ収集方式 等

アクセス管理方式 及び  
暗号化と鍵管理の方式 等

エネルギー供給に関する  
処理の監視・制御方式 等

IPv6対応環境クラウド

IPv6対応環境クラウドの構築・運用・セキュリティ確保

環境クラウドのセキュリティガイドライン・評価基準の策定

# 環境クラウドのセキュリティガイドライン・評価基準に関する 検討項目(例)

環境クラウドアーキテクチャのフレームワーク	環境クラウドの定義、想定モデル 等
ガバナンスおよびエンタープライズリスクマネジメント	ガバナンス、クラウド利用に伴い利用者側に発生するリスクの管理手法 等
法制度及び電子情報の開示	関連する法制度、電子情報に対する法的な扱い 等
コンプライアンスおよび監査	
情報ライフサイクル管理	情報資産管理、情報ライフサイクルの各段階におけるセキュリティの確保 等
仮想化	仮想化技術、レイヤ毎のセキュリティ管理手法 等
ID管理とアクセス管理	ID管理機能、アクセス管理機能 等
アプリケーションの開発・運用管理	クラウドに対応するアプリケーションの開発手法、クラウドにおけるアプリケーションの運用管理手法 等(セキュリティ確保の手法を含む。)
移植性及び相互運用性	クラウドにおけるアプリケーションの移植方法及び相互運用正確保の手法 等
暗号化及び鍵管理	クラウドにおける適切なデータ暗号化及び鍵管理 等
事業継続性	障害時の事業継続の考え方、障害復旧機能や手法 等
インシデント対応	障害発生時の連絡機能や体制 等
その他	